令和８年度　全国学力・学習状況調査の分析結果と今後の取り組みについて

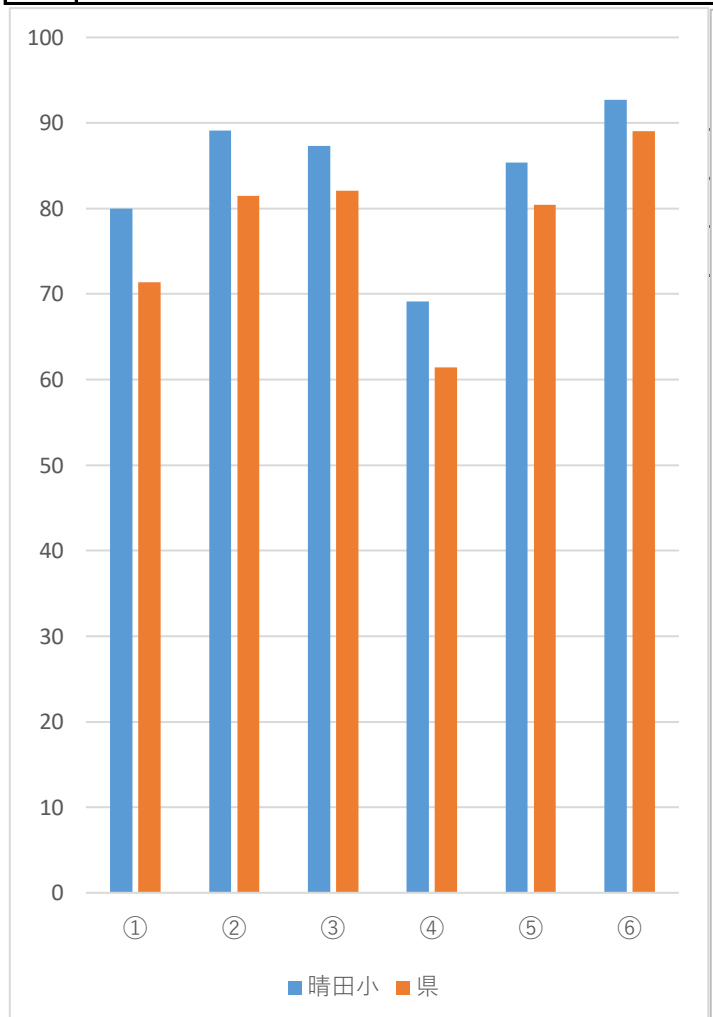
令和８年１０月　小城市立晴田小学校

４月に行われた全国学力・学習状況調査（６年　国語科　算数科）の結果をお知らせします。また、生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と、低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。

【生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」】

＜数値が特に高かった項目＞

①	あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか
②	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めていますか
③	分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか
④	５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
⑤	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
⑥	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



＜分析と取り組み＞

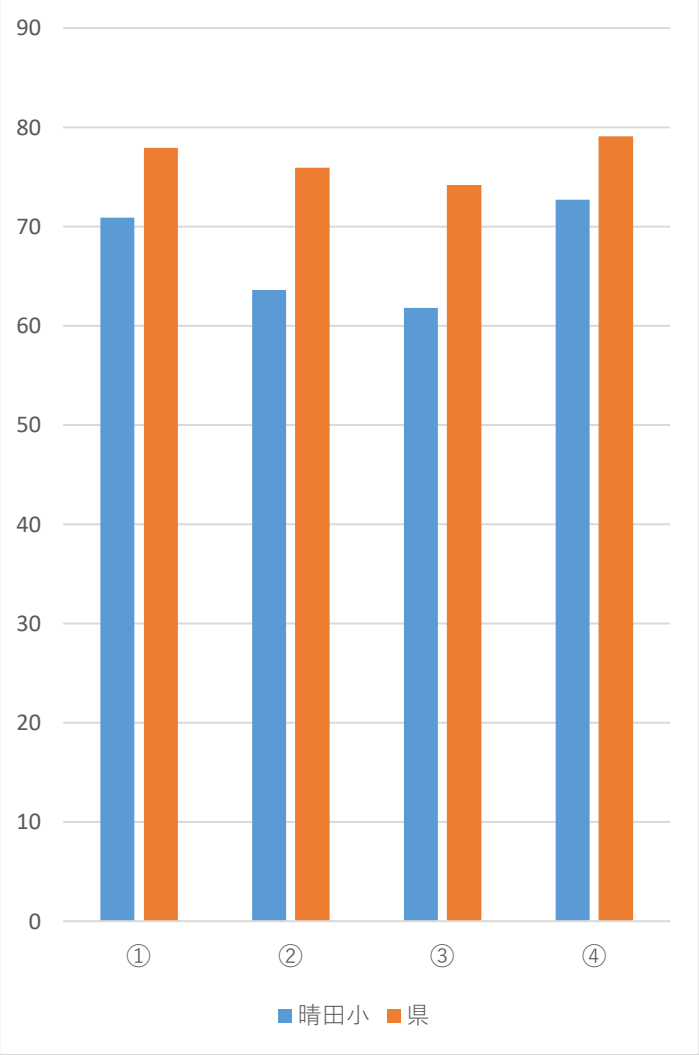
・晴田小では「聴くは思いやり言葉はおくりもの」という合言葉を大事にし、人権教育を進めている。①②の項目が、県の数値よりも大きく上回っているという結果は、これまでの取り組みを通して、合言葉が児童に浸透し、実践できているからであると考えられる。

・晴田小では、自主学習に力を入れており、特に取り組みに工夫がみられる児童には、毎学期「きらり賞」を贈っている。継続した取り組みが、③④⑤の項目に表れていると考えられる。

・宿題は出して終わりではなく、書き直しまで終わって完了であることを徹底しており、児童も分からない問題は、積極的に質問して解決しようとしている。その結果が、⑥の項目に表れていると考えられる。

＜数値が特に低かった項目＞

①	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
②	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントなど）ことができますか
③	５年生までに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
④	国語の授業の内容はよく分かりますか



＜分析と取り組み＞

・①の結果から、批判的思考力の低さが懸念される。情報を鵜呑みにせず、自分の考えに偏りがないか客観的に見つめ直す場面を設定していきたい。
・②では、ICT機器の活用能力に偏りが見られ、晴田小では文章作成能力に苦手意識が見受けられた。タイピングは得意な児童も多いため、ICT機器を積極的に利用することで、苦手意識を払拭していきたい。
・③では、教科を超えたつながりを児童が意識できるよう、意図的に場面を仕組んでいきたい。
・④では、校内研究で算数科を中心として取り組んでいる。その算数科で培ったノウハウを他教科にも反映させる工夫をしていきたい。

◆令和８年度全国学力・学習状況調査　≪６年生　国語科≫

全体の概要
・教科全体の平均正答率が県平均とほぼ同じだった。
・観点別に見ると、知識・技能については、県平均とほぼ同じだった。
　思考・判断・表現については、県平均をやや下回った。
・問題形式別に見ると、「選択式」は県平均をやや下回り、「短答式」は県平均とほぼ同じだったが、「記述式」は県平均を大きく上回っていた。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的な取り組み
知識・技能	・「林さんのメモ」にどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する問題では、県平均より大きく下回っていた。問題文全体を丁寧に読み取り、筆者の考えか自分の考えかを読み分け理解する力に課題がある。	・問題文の大切な箇所に印をつけることを習慣化させる。 ・問題文全体を読んで関連させて読む問題に取り組んだり、習慣的に読み込む力をつけていく必要がある。
思考・判断・表現	・【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く問題では、無回答や条件すべてを満たしていない誤答が多く、県平均を大きく下回っていた。条件つき作文に慣れていないこと、苦手意識があること、経験を作文として書くことに課題がある。	・宿題等で、自分の経験を組み込んだり、複数の条件を満たす条件作文に取り組むようにする。 ・作文などの文章を書く課題に慣れるよう取り組む機会を増やしていく。

◆令和８年度全国学力・学習状況調査　≪６年生　算数科≫

全体の概要
・教科全体の平均回答率が県平均とほぼ同じだった。
・観点別に見ると、すべての観点で県平均とほぼ同じである。
・問題形式別に見ても、すべての形式で県平均とほぼ同じである。
・領域別に見ると、C測定が県平均をお大きく下回っている。他は県平均とほぼ同じである。（測定領域は１問しかないため、課題とまでは言い切れない。）

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的な取り組み
知識・技能	・立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる問題では、県平均を大きく上回っている。これまでの学習の中で、公式をしっかりと身についけることができていると考えられる。 ・基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる問題では、県平均を大きく下回っている。	・「1.5倍」の意味理解や図の読み取り方に課題があると考えられる。基準量、比較量、割合の関係を図に表して考える場を多く設定することで、理解を深めることができるようにする。
思考・判断・表現	・県平均と比べて大きく下回っているものはなかった。 ・単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる問題では、県平均を大きく上回っている。	・情報過多の問題において、必要な情報を選んで活用することに課題があると考えられる。問題文に線を引いたり、図を描いたり、資料に印をつけたりすることで、情報を整理する力を育てる。 ・あいあいタイムなどで、式から友達の考えを読み取る活動を仕組む。